

経営比較分析表（平成30年度決算）

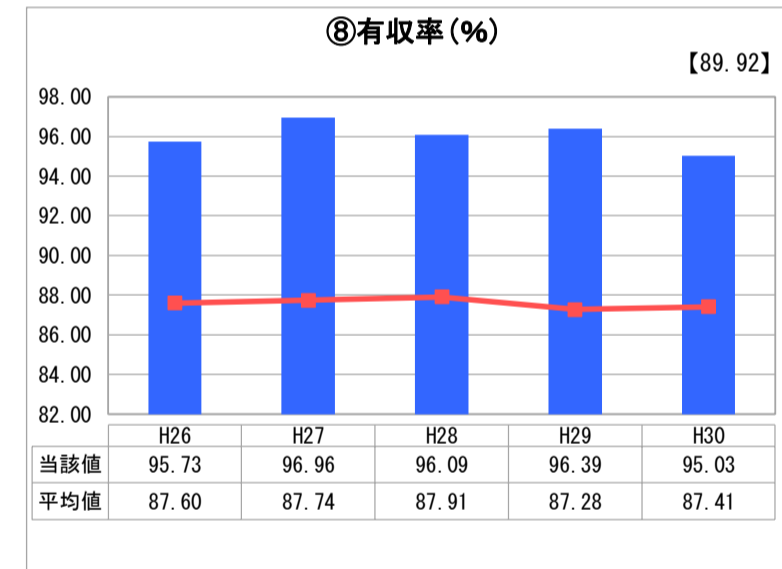
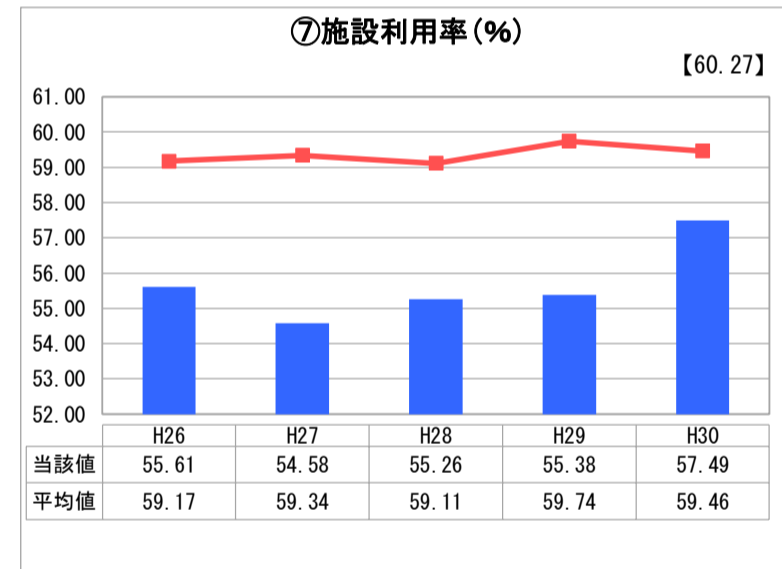
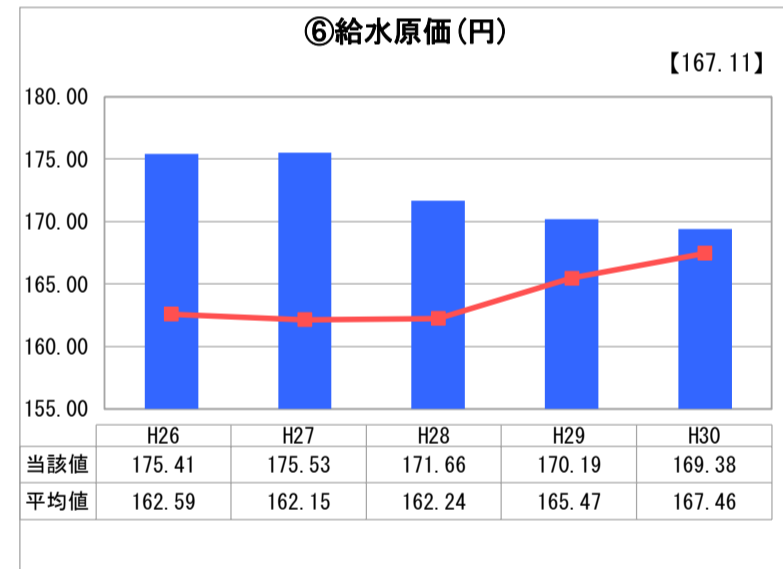
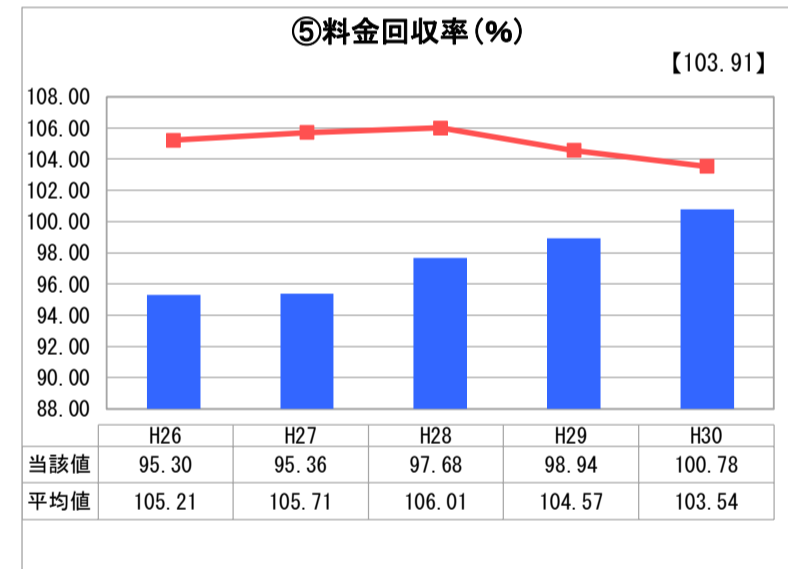
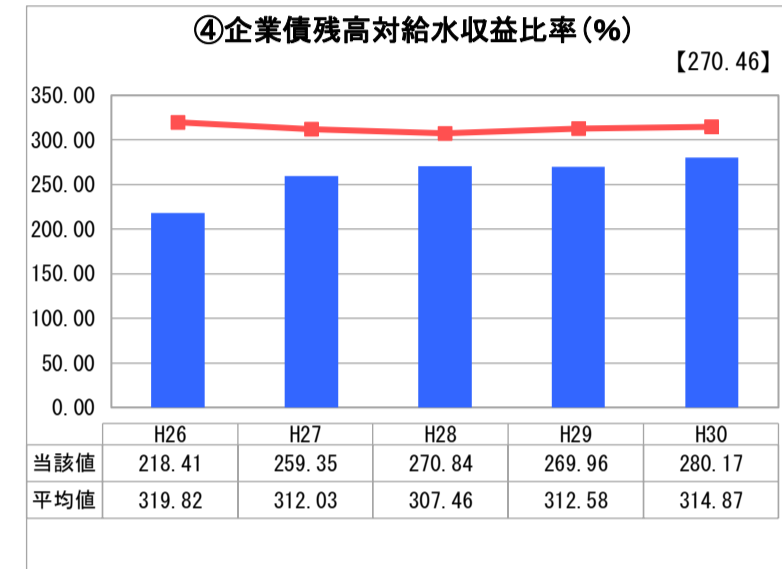
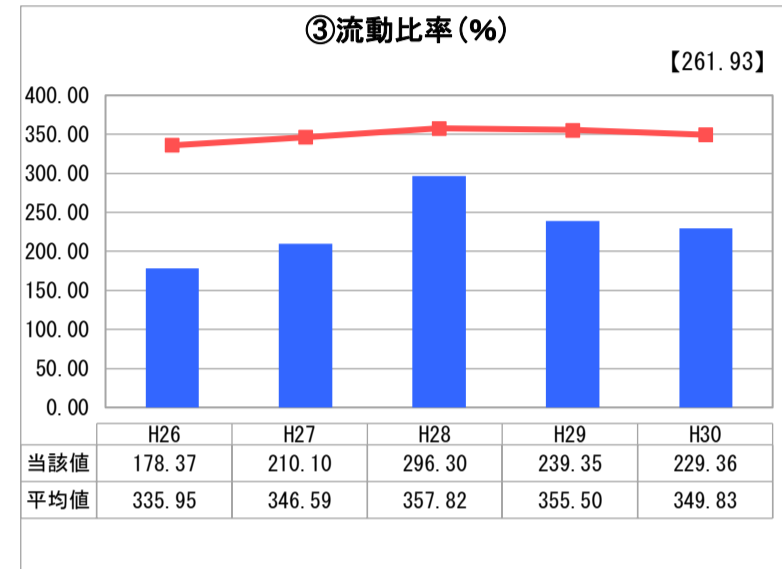
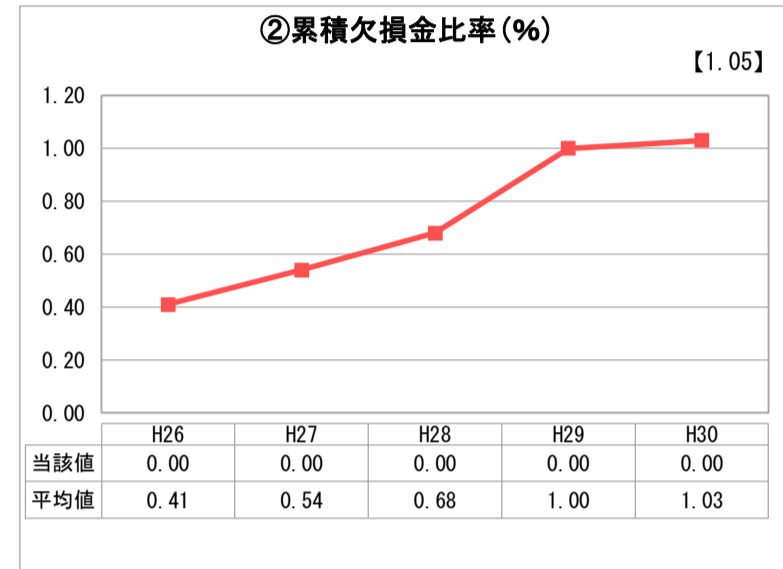
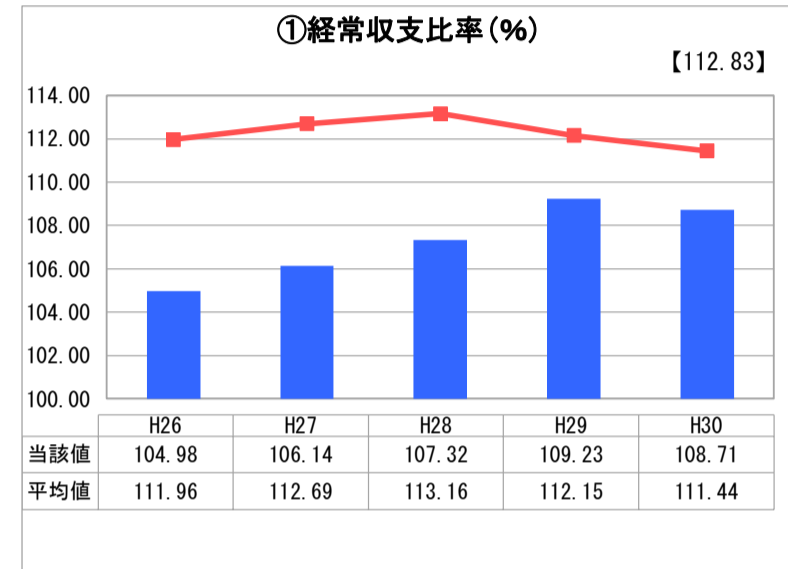
兵庫県 芦屋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	58.51	100.00	2,484	

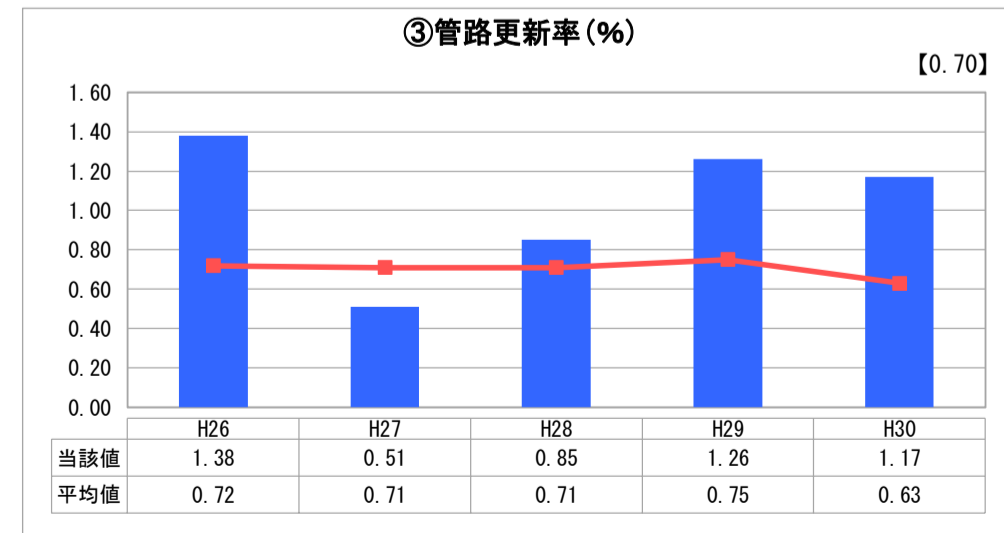
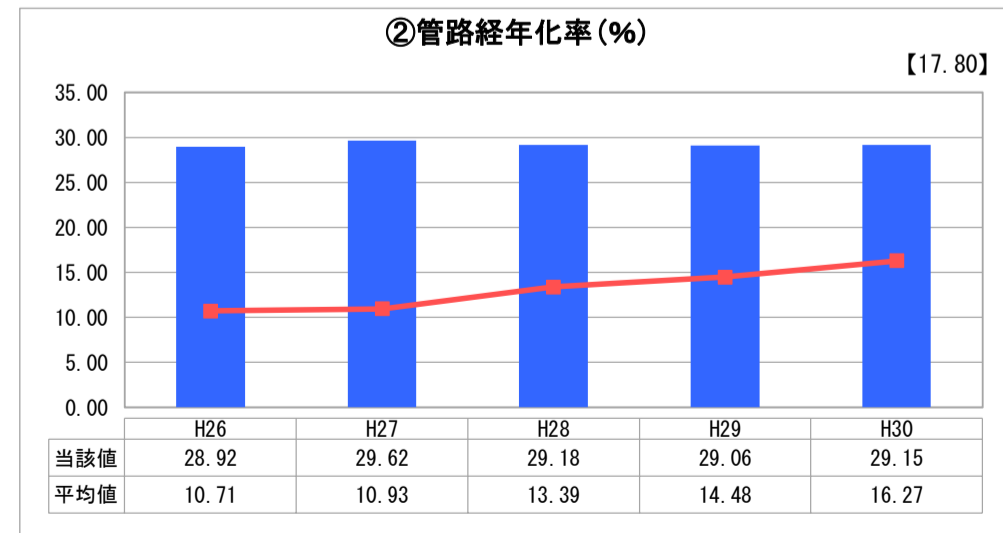
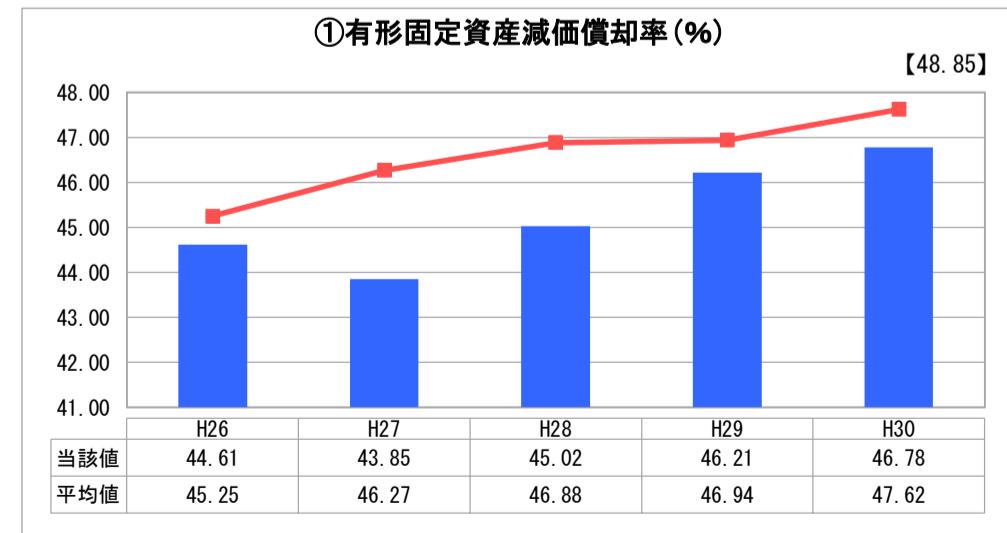
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
96,020	18.47	5,198.70
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
94,222	11.93	7,897.90

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は前年と比較して減少したものの、近年100%を超えている。これは計画的な老朽管の更新や業務の見直しを行い、類似団体と同等の職員数を目指す組織の見直しを行い、費用の減少に取り組んでいる結果と考えられる。そのため、⑥給水原価も毎年減少傾向にあり、類似団体の平均値に近づいている。

⑤ 料金回収率については、市内で大規模リゾート施設が稼働し配水量及び有収水量が大幅に伸びたことで収益が伸び、また費用が減少したことで、100%を上回った。しかし、将来的には人口減少等による水需要の減少が見込まれることから、今後も費用の削減を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は類似団体より若干低いものの②管路経年率が高く、高度経済成長期に集中して投資した管路・施設の更新等の必要性が高い。そのため、優先順位を決め計画的に投資を行っていき、更新にあたっては耐震性及び耐久性に優れた管路を使用して、管路経年率の改善を目指していく。

全体総括

本市は他団体と比較して商業・業務施設が少ないことから大口の利用者も少ないこと、また、今後も一定量まで有収水量が減少していくことが見込まれることから、引き続き計画的な老朽施設等の更新や経営の効率化を図り健全経営に努めていく。